

提言書のながれの確認

1 問題の提起

- ・社会教育活動における世代間の隔たり

2 富士見市の生涯学習推進

- ・富士見市も生涯学習推進基本計画で、「市民一人ひとりが、安心して心豊かに暮らせるまちづくり」を基本理念としている。
 - 「まちづくり」であるから、それは個人で達成されるものではなく、地域のみんなで成し遂げていくもの
 - ⇒そのためには人と人、人と地域との間のつながりが必要。

3 社会教育の役割

「宿題」の「社会教育って？」から補強していきます

- ・人々の生涯学習を支援する、その一環として社会教育がある。
- ・社会教育とは学習主体者以外の者による、意図的な働きかけ
- ・生涯学習は学習者の自発的な「学ぶ意欲」が基本。しかし、学習への動機やニーズが希薄であるという問題もあり、それが課題。
 - 行政としての意図的な働きかけ＝社会教育が必要。

4 問題の再考

「宿題」の「つながりって？」から補強していきます

- ・世代間の隔たり
 - 人と人、人と地域のつながりが消失しているということ
 - ⇒しかし、つながりとは「居場所」であり、富士見市が掲げる「まちづくり」を進めるためにも必要
- ・まさにいつでも、だれでも、参加できるような仕組みを作る必要がある。
 - 取組の「促進」「充実」だけではなく、環境の整備が必要
 - ⇒参加へのハードルを下げることが必要

5 具体的な取組の提案

- ・時代に合わせた、参加へのハードルを下げられるようなシステムづくり
- ・地域と学校、保護者がうまくつながれるようなシステムづくり

今後の会議で検討していくこと

- ・テーマの最終確認と決定
- ・提言書のながれの確認
- ・「3 社会教育の役割」と「4 問題の再考」の補強
- ・「5 具体的な取組の提案」について